

東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文 柳たかを

小学1年のおもいで

小学1年のおもいで1956年の春、僕は幼稚園を経ずいきなり小学校1年生になった。

新入生時の身体検査の時、坊ちゃん刈りの小柄なヨシダ

れたことはなく、紙芝居や貸本マンガに没頭しても叱られることもなかった。

1～2年生の時の思い出で忘れられないのは、1年次の冬休み前に担任のカガワ先生からイソップ童話の「アリとキリギリス」の話

を紙芝居に描いて、新学期にクラスみんなに上演してあげてほしいと依頼されたことだ。おそらく僕が紙芝居やマンガを描くのが好きなことが知れわたっていたのだと思う。

休みのあいだ、画家の父親の仕事場の四畳半で父のアドバイスをもらいながら、十数枚の紙芝居を完成させた。新学期に教壇を借りて上演しクラスみんなに鑑賞してもらった。それ以来、童話「アリとキリギリス」のストーリーや寓意の意味は僕の全身が記憶するお話になったが、



同年でもじつにいろいろな性格の人がいるのだと思ひ知った日

君に後ろから「はよ進め！」と命令口調で言われ、「なんやえらそうに！」とちょっとカチンと来たがそのイラッとした表情に気圧され言い返せなかった。

1年生は全部で5クラス、各組それぞれ約45名で男子と女子に分かれ名簿順で一列に並ぶ。僕の前には裸の上身のあばら骨が目立つムラカワ君、僕の後ろはギョロ目のヨシダ君、最後尾にはいつもハナを垂らしジツとしてるのが苦手だったリュウグチ君。

担任のカガワ先生によるとムラカワ君は心臓に障害があるらしく、唇の色も顔色も青ざめ

ている印象で体育の授業には毎回参加しなかった。

僕の小学校の成績は5段階評価で3～4が多く、図工でときどき5をもらった。

長男の兄と違い父や母から勉強のことでガミガミ言わ



楽しく生きたいけれど油断しているとひどい結末になると知った童話

芸術に没頭するキリギリスか生活第一のアリかどちらを支持するか今でも悩ましいところがある。

やぶにらみ日記 (373)
東成区の昭利 

(1) 新入生



やぶにらみ日記 (374)
東成区の昭利 

(2) 新入生



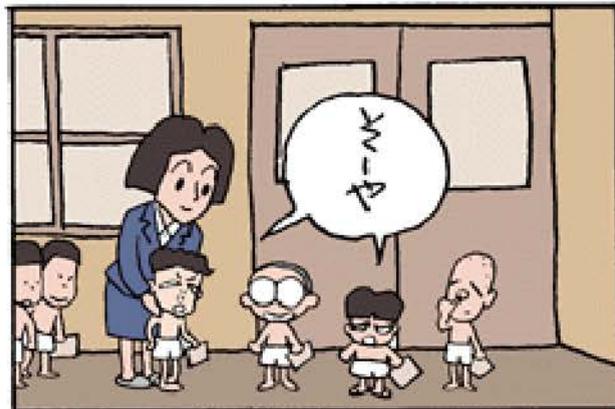
やぶにらみ日記 (377)
東成区の沼利

(5) 新入生



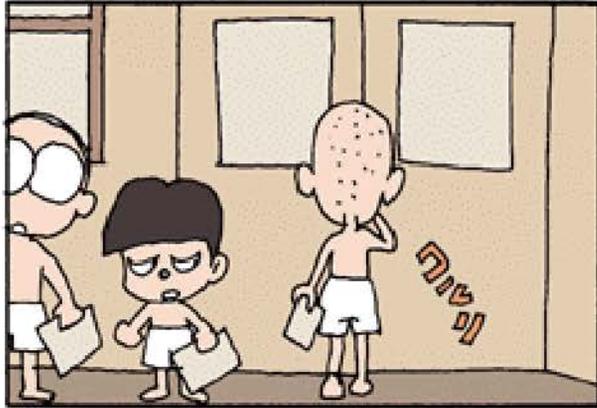
やぶにらみ日記 (378)
東成区の沼利

(6) 新入生



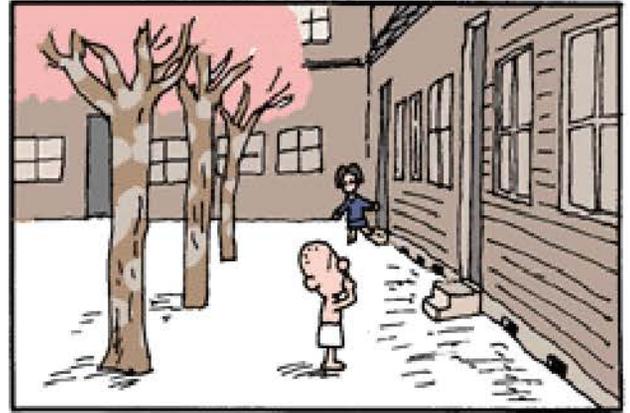
東成区の昭利

(7) 新入生



東成区の昭利

(8) 新入生



やぶにらみ日記 (381)
東成区の沼和
 (9) 新入生



やぶにらみ日記 (382)
東成区の沼和
 (10) 新入生



やぶにらみ日記 (383)
東成区の沼和 
 (11) 新入生

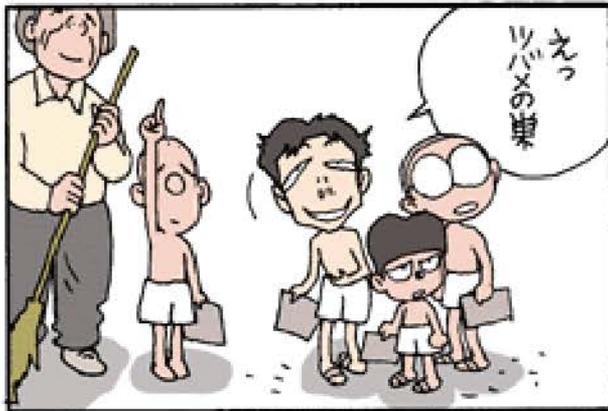


やぶにらみ日記 (384)
東成区の沼和 
 (12) 新入生



やぶにらみ日記 (385)
東成区の沼利

(13) 新入生



やぶにらみ日記 (386)
東成区の沼利

(14) 新入生

